

菅生の森づくりワークショップ



ワークショップの始まり

「菅生の森づくり協議会」が取り組んでいる大沢地区の植樹がワークショップ形式で行われました。大勢のボランティアの参加を受けて、協議会の事務局、菅生町内会、西多摩マウンテンバイク友の会、あきる野市など総勢52名となりました。全部で30本植樹し、樹種はサクラ、モミジ、ケヤキなどです。

植栽場所は、土壌条件が悪く、酸素や窒素が不足している状態（グライ化、窒素飢餓）であり、難しい植栽条件でした。本来は、初めに植栽場所の土壌改良が必要になりますが、このワークショップでは樹木の力を信じて、そのまま植樹を行いました。酸素不足に対応するためには、なるべく浅く植えて少しでも根の呼吸ができるような方法での植栽を心がけました。根を浅く植えたことで、支柱がとても重要になります。



モミジの植樹





サクラの植樹



サクラは、上手に根付いたため、植栽20日後で開花し、新芽も展開を始めています。このまま順調に育つことを祈ります。



このワークショップの特徴として親子参加が目立つことがあげられます。植えた木々が大きく育ち、気持ちの良い日陰を人々に提供するには何年もかかります。子どもの参加があることで、世代を超えて引き継がれていくことが期待できます。森づくりは時間がかかるため、世代を超えて引き継がれることがとても大切だと思っています。参加した子どもたちが大人になった時に、立派な樹林が広がっていることを願っています。土壌条件が悪いところですが、まずは、適切な管理を続けることが重要になります。